

これは、一見地味に見えがちな植物プランクトンに、子どもたちが親しみを持てるように作成した、クンショウモ型の教材パーツです。モデルにしたのは、琵琶湖にちなむピワクンショウモ（琵琶勲章藻／日本固有種）で、円盤状に細胞が並び、外側に細かな突起を広げる独特の姿を、明るい緑色の造形で表しています。顕微鏡の中でしか見えない小さな藻類を、手に取れる大きさにすることで、「こんな形の生き物が水の中にいる」という驚きを実感しやすくしています。

3Dプリンターで作ったものですが、厚さはわずか0.4mmほどで、立体というよりも平面造形に近い仕上がりがります。その薄さによって、ノートや資料に貼ってもかさばらず、観察記録や学習プリントの装飾にも使いやすくなっています。普通のシールでは表現しにくい、細胞と細胞の間のすき間や、外周部の細かな切れ込みまで再現できるのが、3Dプリントならではの利点です。

クンショウモは、複数の細胞が規則正しく集まった定数群体をつくる緑藻で、その整った幾何学模様は、顕微鏡観察の魅力を伝えるのにぴったりです。この教材では、形的美しさを少し誇張しながらも、細胞の並びや間隙の雰囲気大切にしました。テープのりを使えば簡単にノートへ貼ることができ、観察したプランクトンを記録するページに添えることで、学習の記憶にも残りやすくなります。

